

名優 仲代達矢さんを偲んで

竹の台 米田 哲夫



戦後80年、阪神淡路大震災30年が終わろうとしています。11月8日、仲代達矢さんが亡くなりました。92歳でした。やはり、この一年を振り返る時、私にとって仲代さんが亡くなるは、最大の出来事でした。仲代さんの神戸での舞台を振り返りながら仲代さんを追悼したいと思います。

仲代さんの神戸での初めての舞台は、1957年3月、モリエール作・田中千禾夫演出『タルチェフ』で旧国際会館の大ホールでした(私は観ていません)。若干25歳でした。そして2023年5月『バリモア』(文化ホール)(91歳)まで61年間、24本に及ぶ舞台で私に芝居の楽しさ、役者の魅力を与えてくれました。

私が初めて仲代さんにであったのは、映画で、1959年「人間の条件」(小林正樹)監督でした。6部作で10時間に及ぶ映画は、ラスト、雪原をさまよう梶という青年を演じた仲代達矢という俳優は60年以上たっても強烈に心に残っています。(後年、海員会館で一挙上演があり弁当をもって見ました)

仲代さんは1932年に生まれ、1955年に俳優座養成所4期(同期に宇津井健、佐藤允、中谷一郎)を卒業しています。ご承知のように俳優座養成所は新劇団が初めて自らの劇団に俳優を養成する施設で、数多くの名優を排出して映画界、演劇界に多大な貢献をしています。1957年に俳優座の女優宮崎恭子さんと結婚しました。その後二人は映画、演劇で大きな影響を与えた「無名塾」(1975年)を創設しました。おそらく、俳優座養成所時代における役者づくりが大きな影響を与えているのではないかと想像しています。

神戸労演10周年記念例会1964年『ハムレット』(千田是也演出)が二度目の舞台でした。冒頭で父の亡霊を追いかける勇壮な仲代ハムレットの声と動きは60年たっても忘れてはいません。「ハムレット」は俳優座総出演で東野栄次郎、東山千恵子、市原悦子、永井智雄、滝田雄介、平幹二郎、田中邦衛、井川比佐志、加藤剛たち(これらの俳優は俳優座劇場立ち上げにも貢献)と千田是也演出のもと優れた演劇を神戸に届けてくれました。1964年に「東海道四谷怪談」を小沢栄太郎演出で時代劇にも挑戦しました。そして、シェイクスピアの舞台が続きました。1970年「オセロ」仲代達矢、中野誠也。1971年『ハムレット』山本圭、佐藤オリエ。72年『リア王』東野英治郎、大塚道子。74年「リチャード三世」仲代達矢 岩崎加根子、77年「ジュリアス・シーザー」仲代達矢、加藤剛。78年「お気に召すまま」山本圭、磯部勉。79年「マクベス」加藤剛、大塚道子。80年「ハムレット」山本圭、香野百合子。等々続々とシェイクスピア劇は上演されていきます。79年に俳優座を退団した仲代さんは82年に隆巴(宮崎恭子)演出「マクベス」を演じています。シェイクスピア劇以外では1975年にはゴーリキーの「どん底」でサーチンを主演しています。やや低めの甘い太い声の「に・ん・げ・ん…人間こいつは素晴らしい」のセリフは今も耳に焼き付いています。仲代さんは他に1967年に安部公房の『どれい狩り』共演岩崎加根子。

75年には「令嬢ジュリー」は栗原小巻と。78年のギリシャ悲劇「オイディプス王」共演神崎愛。81年にマキャベリ作「毒の華(喜劇マンドラゴラ)」山本圭。2003年に「森は生きている」山本圭。2008年は「ドン・キホーテ」共演山谷初男。と限りなく舞台で燃えつくしました。こうして振り返ってみると仲代さんは役者として一人の俳優がその舞台そのものを描くことができる唯一の役者(他に滝沢修、杉村春子)だと私はみています。

仲代さんは1975年に無名塾を立ち上げ1979年に俳優座を退団しています。そして「生涯俳優」として舞台に立ち続けていました。合宿した能登中島町で1995年に立ち上げた演劇堂は都市文化ではなく地方に文化・演劇をと素晴らしい劇場を作りました。

劇場創設の際、神戸文化ホールに視察に来ています。おそらくすでに文化ホールで数多くの舞台にたっていた仲代さんの進言があったのではないかと想像しています。ちなみに演劇堂は舞台の奥が開きます。開いた向こうは原野です。「マクベス」を観た際、奥が開き、森が動くといわれた馬に乗った軍隊が舞台に登場は壮観でした。少し寒かったです。



さらに、平和への発信の言葉は演劇同様、私たちを励ましてくれました。仲代さんは若い頃、そんなに積極的な平和への発言は少なかったように感じていました。12歳のころ幼い少女の手だけが残し、「思わずその腕を離して逃げてしまった。吊ってあげなきゃいけなかったのに…あの子を捨てて逃げてしまった悔いが、今もずっと残っています。」痛恨の痛みが、高齢になった仲代さんを動かしたのでしょうか。「日本の憲法はできて70年以上。曲がりなりにも一人も殺さず、殺されていません。これは世界の軌跡でしょう。なぜこの軌跡を、守らないのか。人間の英知の問題です。」

「私は死ぬとき、戦争反対！と言って逝きたい」と。仲代さんの辞世の言葉でしょう。そして舞台では、92歳。最後の舞台は師匠千田是也が広めたブレヒトの最高傑作「肝っ玉おっ母と子供たち」でした。戦争は商売だと戦場を求めて歩き続ける反戦劇でした。まさに、「私は死ぬとき戦争反対！」を貫きました。

仲代達矢さん、長きに渡って人間の生きていく素晴らしさを、舞台の役者の素晴らしさを、私たちに伝えていただいて本当にありがとうございました。ゆっくりと安らかにお眠りください。